

音楽グループレッスンにおける1～2歳児の行動の発達的变化 —歌唱と絵本読み聞かせの比較—

日本音楽教育学会第44回大会
2013年10月13日
梶川祥世^{*}・森内秀夫
(^{*}玉川大学)

【目的】

集団行動の経験が少ない3歳未満児において、音楽のグループレッスンへの参加はどのように発達していくのであろうか。低年齢幼児の集団行動への参加については、保育の場での質的観察に基づく研究が多く行われているが、量的な検討はまだ少ない。

そこで本研究は、音楽グループレッスンでの歌唱と絵本読み聞かせの2つのセッションにおける幼児の行動発達を縦断的に調査し、幼児の参加を促す指導者による働きかけと、幼児の行動表出の関わりを明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象 音楽グループレッスン(親子約8組)に参加した1歳児4名(男1名、女3名)を対象とした。開始時年齢は1歳6ヶ月～1歳11ヶ月であった。

レッスン概要 指導者1名による親子参加型レッスンを2回/月で1年間(全24回)実施した。構成は、指導者によるピアノ演奏、歌唱、道具を使った音楽遊び、絵本読み聞かせ(音楽付)、身体を使った音楽遊びで、各セッション5～10分で進行した。第4(以降①)、12(②)、16(③)、23(④)回における歌唱と絵本読み聞かせのセッションを分析対象とした。

分析 ビデオ映像に基づき、指導者および幼児の行動を分析した。指導者の行動は、歌/絵本のキーフレーズ発話(例:「きらきら」)、キーフレーズ歌唱、キーフレーズに対応するジェスチャ(例:手を上に向けて左右に捻る)の出現頻度を数えた。幼児の行動は、発話(内容関連)、歌唱、笑顔表出、リズムカルな身体運動、ジェスチャ表出について、15秒間隔で出現有無を記録し、5分間の出現コマ数を数えた。

【結果】

指導者は、歌唱セッションではジェスチャを多く行ったが、①に比べ②～④で次第に頻度が減少した。また前半の①②ではキーフレーズ発話が多いが、後半の③④ではキーフレーズ歌唱が増加した。絵本読み聞かせセッションでは、指導者はキーフレーズ発話を多く行い、後半にジェスチャを増加させた。

幼児4名のうち、指導者による参加度評価が安定して高かった2名(High)では、歌唱セッションにおいて、歌唱、笑顔表出、ジェスチャが前半から後半にかけて増加した。残る2名(Low)では、④で歌唱がやや増加、ジェスチャは前半で多く後半にはほとんどみられなかった。絵本読み聞かせセッションにおいて、High2名では②～④で発話、③④でジェスチャが増加した。Low2名でも、発話、笑顔、ジェスチャが全体頻度は低いながらも増加傾向を示した。

【考察】

指導者は、レッスン期間の前半では、記憶・想起が容易な短いキーフレーズ発話と単純なジェスチャの繰り返しにより、幼児の注意喚起と参加を促していた。一方後半では、歌唱セッションで歌唱を多く行うようになり、絵本読み聞かせセッションでは、キーフレーズとジェスチャを繰り返しかつ継続的に呈示するというように、行動の分化が見いだされた。

これに対し、幼児はレッスン期間後半には歌唱セッションで歌唱行動を、絵本読み聞かせセッションで発話を多く行うようになった。またジェスチャは両セッションで頻度が増加した。これらの行動傾向から、幼児が次第に自発的にレッスンの場に参加し、表現を行い始めていることが示された。